

市立若松病院における院内感染について（概要）

1 概 要 市立若松病院に入院中の患者にVRE（バンコマイシン耐性腸球菌）の保菌が確認され、他の入院患者にも検査を行った結果、計8名の保菌者が確認されたもの。（発症者はなし）

2 経 緯

8月25日（水）	・4人部屋に入院中の患者Aに真菌感染を疑う症状あり。分泌物を細菌検査に提出。
8月30日（月）	・検査の結果、VREの疑いがあるとの中間報告あり。 ・北九州地区感染制御チーム（KRICT）のVRE検討委員会委員長と今後の対応を協議。 ・患者Aを個室に隔離。隔離病室への入室を医療従事者のみに限定し、VRE感染対策を開始。面会者に手洗いを励行するよう指導。
8月31日（火）	・患者AのVRE保菌が確定。（発症はなし） ・臨時の感染対策委員会を開催。VRE感染対策につき今後の対応を決定。 ・KRICTの上記委員長より、感染対策の現地指導を受ける。 ・任意で保健所に報告。
9月1日（水）	・患者Aが入院する病棟全患者の便検査を開始。 ・当該病棟への新規入院患者の受け入れ・他病棟との転入出の制限を開始。
9月3日（金）	・上記検査の結果、新たに2名（患者B、患者C）の保菌が判明。 患者A、患者Bは軽快退院。 ・臨時の感染対策委員会を開催。当該病棟の面会制限を開始。院内を移動する職員の手洗い徹底を周知。
9月5日（日）	・新たに3名（患者D、患者E、患者F）の保菌が判明。
9月6日（月）	・新たに1名（患者G）の保菌が判明。患者Eは軽快退院。 ・臨時の感染対策委員会を開催。KRICTの感染対策に対するレポートを全職員に周知し、再度感染対策の徹底を確認。
9月7日（火）	・他病棟への感染拡大を監視するため、他病棟ハイリスク患者への便検査を実施。 ・保健所が感染対策の実態に関するヒアリング及び当該病棟の視察を実施。
9月10日（金）	・上記検査の結果、新たに他病棟の患者1名（患者H）の保菌が判明。

3 現在の状況

保菌者数	うち退院者	現在の入院者
8名	4名	4名

退院者4名のうち1名は、9月4日（土）に原疾患の悪化のため死亡退院。（死因はVREによるものではない）

4 今後の対応

現行のVRE感染対策と感染拡大の監視を継続。

VREの保菌が確認された患者以外からのVRE検出がないことを確認後、当該病棟への入院患者の受け入れ・他病棟との転入出の制限を解除。

問合せ先
市立若松病院事務局 藤本、中村
TEL：761-3936

【VREとは】

バンコマイシンという抗菌薬に抵抗性を持ち、当該薬剤が効かなくなった腸球菌のこと。

【腸球菌とは】

人間の腸内に存在する常在菌の一種。通常健康体ではこの腸球菌が感染症を引き起こす原因となることはないが、何らかの病気にかかって免疫力が低下している状態では、感染症などを引き起こす可能性がある。

【保菌とは】

体内に病原体を持っているが、病原体による病気は発症していない状態。

【発症とは】

病原体が体内で活動を始め、肺炎や敗血症、傷口の化膿などの症状を示した状態。

【感染症法に基づきVRE感染の届出が必要な場合とは】

VREが原因で肺炎や敗血症、傷口の化膿などが発症した場合。

【多剤耐性アシネトバクターの検出について】

現在、北九州市立病院内での検出はない。

【多剤耐性肺炎桿菌の検出について】

現在、北九州市立病院内での検出はない。